



社会福祉

法人

豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

2002年(平成14年)10月1日

第36号

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒561-0881 豊中市中桜塚 2-28-7 TEL (6841) 9393

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

愛称決定

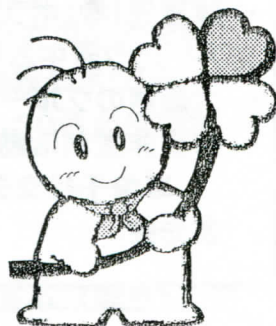
ボランティア活動推進センター ぷらっと



今年 7 月 9 日にオープンしたボランティア活動推進センターの愛称が、「ぷらっと」に決定しました。102通の応募があり、「ぷらっと気軽に立ち寄れる場所」、「プラットフォームのように人や情報が行き交う場所」という意味が込められています。

「ぷらっと」では、「ボランティアはじめま専科」といったミニ講座やボランティア相談などを随時行っており、オープン以来、9月末までに約1000名の利用者がありました。また、市内のボランティアグループが交代で当番をしていますので、ボランティア活動中の方に活動に関する相談やアドバイスをしていただくこともできます。

より多くの方に、ご利用いただき、ボランティア活動に参加していただけたらと思います。



ぷらんちゃんが目印！

《センターで利用できること》

- ★ ボランティアサロン(ミニ講座)の開催
- ★ ボランティア・地域活動に関する情報提供
- ★ ボランティア関連図書・ビデオ等の貸し出し
- ★ ボランティア体験グッズの貸し出し
- ★ ボランティア相談
- ★ ボランティアグループ活動の支援
- ★ ボランティアのネットワークの支援
- ★ ボランティアの交流の場 など

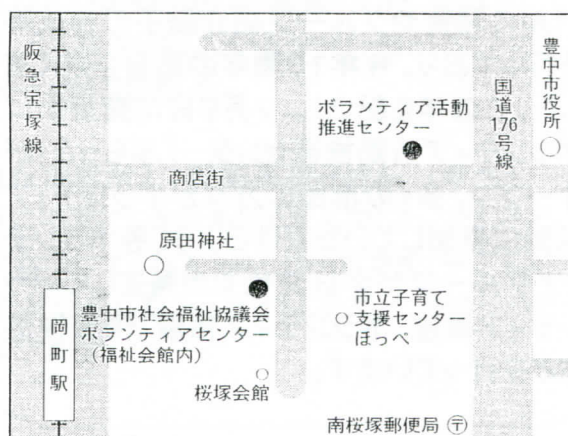
《利用時間》

月曜日～金曜日 10時～17時15分
(休日：土・日・祝日および年末年始)

《所在地》

豊中市中桜塚2-19-2

電話&FAX 6848-1000



豊中市社協ボランティア団体連絡会ってなあに？

豊中市内には、高齢者や障害者、子どもなどを対象としたさまざまなボランティアグループがあります。平成4年、市社協の呼びかけでこれらのグループの情報交換や連携を図る目的で「豊中市社協ボランティア団体連絡会」が結成されました。毎年、加盟団体が増えつづけ、現在では45のボランティアグループが所属しています。

どんなボランティアグループがあるのかな？

詳しい活動内容や活動先については、ボランティアセンターへお問合せください。

～ 障害児・者対象のグループ ～

- ・ 手話サークル「ゆうなぎ」
- ・ 庄内手話サークル「虹」
- ・ 手話サークル「あさなぎ」
- ・ 手話サークル「トマト」
- ・ 蛍池手話サークル「ジャンケンポン」
- ・ 手話サークル「さざなみ」
- ・ 手話サークル「波」
- ・ 豊中筆記通訳グループ「ダンボ」
- ・ 豊中点訳会
- ・ 点字サークル「つくしんぼ」
- ・ 対面朗読サークル「ヴォイス」
- ・ 豊能障害者登山実行委員会
- ・ 障害児(者)ボランティアグループ「ゆう」
- ・ カトリック豊中おもちゃライブラリー
- ・ 大阪声のグループ
- ・ 特定非営利活動法人
車椅子社交ダンス普及会
- ・ 友光会



* 印は市社協登録ボランティアグループです。

～ 青少年対象のグループ ～

- ・ 大阪北 YMCA 野外活動リーダー会
- ・ ガールスカウト豊中地区協議会
- ・ ボーイスカウト豊中地区
- ・ 豊中市スポーツ少年団
- ・ 豊中市青少年野外活動協会
- ・ 豊中市こども会連合会
- ・ 豊中地区 BBS 会 ・「つぼみ」(*)



～ 在宅支援グループ ～

- ・ 「いきいき歌体操グループ さわやか」(*)
- ・ 「みちしるべ」(*) ・ 「聴くの会」(*)
- ・ 「小さな手」(*)
- ・ 「豊中アッシー」(*)
- ・ 「ステッキ」(*)
- ・ 「そよかぜ」(*)
- ・ NALC 豊中・池田・箕面



～ その他 ～

- ・ 市立豊中病院ボランティアグループ
- ・ 北野病院ボランティアグループ
- ・ 老人大学グループ
- ・ 大阪北生協ボランティアグループ
- ・ 千里カトリックニュータウンカトリック教会
- ・ 「アクセス」(*) ・ 「ズームイン」(*)
- ・ SA とよなか
- ・ まどか
- ・ WILLING
- ・ ゆめゆめクラブ
- ・ 豊中教会婦人会



連絡会では、豊中ボランティアフェスティバルの開催やグループ紹介冊子の作成等を行っており、今年10周年の節目を迎えました。この年を記念し、7月9日に商店街にボランティア活動推進センター「ぷらっと」がオープン。多くの市民の方々がボランティア活動に参加していただけるよう、各ボランティアグループが半日交代で当番をしてボランティア講座・ボランティア相談・情報提供などを行っています。

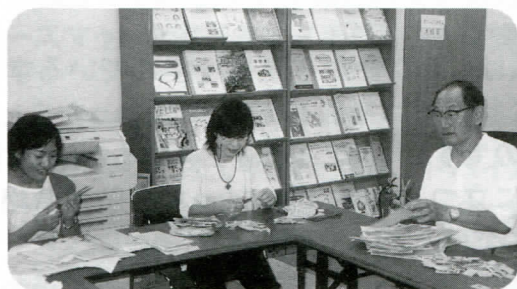
◎ボランティアミニ講座 シリーズ第一弾

ボランティアをはじめま専科

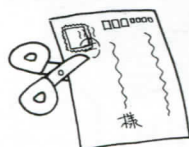


ボランティア活動推進センター「ぷらっと」では、ボランティアをはじめたい人のためにボランティア団体連絡会加盟団体の協力により、ボランティアミニ講座を開催しています。

★ 使用済み切手の収集ボランティア ★



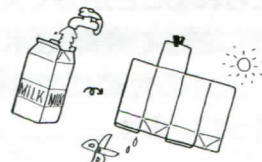
9月6日(金)にボランティアグループ「まどか」を講師に開催しました。「まどか」では、使用済み切手やカードを集め、より分けた後、海外で医療支援を行っている団体へ送っています。当日は、10名の参加者が使用済み切手をより分け、送りやすいように周囲をきれいに切っていました。



★ 紙パックを使ったりリサイクル作品づくり ★



9月9日(月)に「大阪北生協ともしびボランティアグループ」を講師に開催しました。「大阪北生協ともしびボランティアグループ」では、一般に回収されていない酒パックを利用し、座椅子や枕などを作っています。11名の参加者は説明を聞いた後、酒パックをはさみで型どおりに切り(これが結構大変なのです)、座椅子をつくりました。



教職員のための‘ボランティア体験学習’研修会

今年から、総合的な学習の時間が実施されています。ボランティア団体連絡会に加盟しているボランティアグループの皆さんにも小学校や中学校でボランティア体験学習の講師として活躍していただいています。

6月には、市内の小・中学校の教職員を対象に、どのようなボランティアグループがあるのか、活動内容を紹介したり、ボランティア体験学習を行うにあたってのポイントについて、ミニ講座とボランティアの方々の指導で実際にインスタントシニア(高齢者擬似)や車

いす、アイマスク、手話、点字体験を

行いました。

体験された先生方からは、「毎年、ボランティアの授業をすることになっているが、そのためにもこのような場でいろんな方のお話が聴けるのがありがたい。」先生も「実際に体験して初めてアイマスク体験わかることがあるんだなあ。子どもたちにもこの感動を伝えたい。」といった感想が寄せられました。



先生も
アイマスク体験



ボランティアはいま



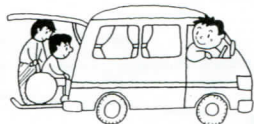
今回は、ボランティア活動を始めたばかりのお二人に、活動を始めたきっかけや現在活動して感じることにについて書いていただきました。

和氣 一也 さん

今年1月にボランティアセンターに登録。
現在、「豊中アッシー」で活躍中。

ボランティアに、何らかの形で参加したいと常に胸中にはありました。ただ、自分にできる、自分にむいているボランティアは何かと思案するだけでなかなかきっかけがなく、ずるずると今日に至っていたのです。が、たまたま「広報 とよなか」の「ボランティアをはじめませんか」をみて、おそろおそろ顔を出したところ、偶然「豊中アッシー」が担当の時でした。車の運転以外何もできず、また職務で車椅子の方のお世話をした事もあった私にぴったり。後日入門講座で吉田先生が「出来る事を、出来る人が、出来る時に」と言われましたが、まさしくそのものでした。しかも二人ペアの「ユウ-あい号」は、いつも先輩と一緒にです。皆さん素晴らしい方ばかりで教えられることが多く大変勉強にもなります。

私にとって今年はボランティア元年。肩を張らず自分のためにできるだけ長く続けられればと願っています。



米澤 晶子さん

今年7月にボランティアセンターに登録。
現在、「そよかぜ」で活躍中。

私は、この春から福祉を学んでいる学生です。これまでは福祉の現場に関わったことがなかったのですが、ボランティアをすることで、誰かの役に立つと同時に私にとっての勉強の場にもなるのではと思い、活動をはじめました。

最初はボランティアをするといっても何からはじめればいいのか解らなかったのですが、豊中市の広報に「ボランティア活動推進センター」新設の記事とボランティア体験プログラムの記事があったので、それをきっかけとして活動に参加するようになりました。

初心者であるという点と、学校とアルバイトがあるので時間的な問題が不安でしたが、活動の形や頻度は様々ですし、センターには相談に乗ってくださる方もいらっしゃいますので、無理をせず活動を続けていくことが出来そうです。



ボランティア受入施設連絡会議を開催

7月1日、ボランティア受入施設連絡会議を開催しました。ボランティア体験プログラムでボランティアを受け入れる高齢者関連施設や障害者関連施設、保育所、校区福祉委員会主催のミニディサービスなど(49施設)のボランティア受け入れ担当者が参加されました。会議では、ボランティアの受け入れ状況や課題などについて話し合われました。今回初めてボランティアの受け入れをされる施設もあり、熱心に情報交換されていました。

担当者からは、「ボランティアを受け入れることで利用者が明るくなった」「積極的に関わってもらい職員にも刺激になった」という意見がある一方で、「何がしたいのか目的意識をもってきてほしい」「欠席や急な日時変更などはできるだけ早く連絡がほしい」といったボランティア活動を行なう上での気をつけてほしいことについての意見も出されました。



ボランティアを始めたい人の ボランティアセミナー



市社協登録ボランティアグループの活動やボランティアセンターの活動内容を知っていただくために随時ボランティアセミナーを開催しています。

「小さな手」編

介護をしている方や介護されている方々の声を聞きながら、ビーズマットや寝巻きなど手づくりの介護用品を作っています。



7月11日、ボランティアセミナーを開きました。予想以上の応募があって、10名の方が参加されました。会員たちがアドバイスしながら、「にぎりっこ」(リハビリ用の介護用品)を製作。お互いの会話も生まれ、楽しみつつ仕上がりました。

いろいろな介護用品についての説明も熱心に聴いて質問されたり、参加者の中には家族を介護中の人もあって型紙を借りたりされました。早速、入会手続をされる方もあり、次回には5名の入会があってうれしいことでした。

介護の問題に多くの方が関心をもたれるようになったのだと思います、ささやかなことで集まれば人に役立つ大きな力になるかと意を強くいたしました。(小さな手 M.M.)



「そよかぜ」編

病気や障害などで家事に困っている世帯を対象に買い物などのお手伝いや子育ての支援をおこなっています。

7月16日、「虐待ケースとボランティアの関わり方」をテーマに、大阪府池田子ども家庭センターの虐待対応総括主査 池田孝夫氏に講演していただきました。

子ども家庭センターでの相談件数は、平成12年1602件、平成13年2365件と年々増えています。虐待防止法ができて、学校の先生、保健所、福祉事務所など子どもに関わる職種の人に対して、虐待の通報義務が生じたためと、近隣の人々の付き合いが昔に比べて薄くなり、本人に言うよりセンターへ通報する状況が増えたためもあるのではないかと思います。

- ① 虐待者：実母—65%、実父—23%、合計 実父母—88%
- ② 被虐待者の年齢：3歳まで—20%、3歳から小学校入学まで—30%、小学生—37%
- ③ 虐待の種類：身体的虐待—46%、保護の怠慢(放置・放任・養育拒否など)—42%、その他(心理的虐待、性的虐待)—12%

「そんなつもりではなかった…」でも子どもにとって有害ならば、それは虐待。

虐待は、家族の抱えるさまざまな要因が重なっておこり、特別な親が引き起こすのではなく、だれにでもおこり得る問題なのです。少しでも早くに気づき、適切なサポートが必要である、というお話しでした。

ずっと以前に子育てをしたことのある私にとって、しつけ・保護の名で感情的になり、自分の子ども達を虐待した時もあったのではないかと考えさせられました。(そよかぜ N. I.)



ボランティア講座・

ボランティアセンターでは、援助を求めている人たちのお役に立てるいろいろな講座や体験プログラムを開催しています。

ボランティアスクール入門講座

今年は、6月7日～21日の金曜日に豊中市立福祉会館で、ボランティア活動・社会福祉に興味がある方を対象に3回講座で実施しました。



1回目

吉田芳子さん(市社協地域ボランティア活動推進委員長)を講師に「はじめませんかボランティア」というテーマで、今日なぜこのようにボランティアが求められるのか、その背景とボランティアとは何かについて考えました。

2回目

市社協登録ボランティアグループ「みちしるべ」「ステッキ」の皆さんの協力で車いす、アイマスク、高齢者疑似体験をしていただきました。

最終回

実際にボランティアをされている、市社協登録ボランティアの牧野正昭さん、豊島校区ボランティア部会の河合安子さんを講師に「私にとってのボランティア活動」というテーマで体験談をお話していただきました。

参加者からは「疑似体験をして初めて高齢者・障害者の方々の立場がわかったような気がします。今後、この講座を受けた経験を活かし、自分でできる範囲で役立てれば…」といった感想が寄せられました。

親子ボランティア講座

夏休み、小学校1年生～4年生とその保護者を対象に、「親子で探検隊」というテーマで、親子で一緒に活動に取り組み、楽しみながら新しい発見をすることを目的に開催しています。今年は7月25日に開催。15組35名の親子の参加がありました。

ぼくについて
きてね。



点字・
アイマスク体験隊

親子でボランティアについて学んだ後、「車いす体験隊」、「点字・アイマスク体験隊」、「手話体験隊」に分かれて体験を行いました。車椅子探検隊はリフト付自動車「ユウーあい号」で豊中駅へ行き、福祉の店「なかま」を探検。点字・アイマスク体験隊は点字を打ったり、アイマスクをして岡町商店街を探検しました。手話体験隊では、指文字や簡単なあいさつを覚えました。

体験後の報告会では、それぞれが体験したことを発表し、親子で一緒に体験をしたことを通して、これからも一緒にボランティア活動について考えたいという感想が寄せられました。

スクールいろいろ

ボランティアを養成し、社会福祉に理解と関心を深めていただくために、



サnderボランティアスクール

平成10年から社会人のためのボランティアスクールとしてスタートしました。
今年で4回目。この間に述べ200人以上が卒業されました。

今年は、7月14日(日)に開催。はじめにボランティア活動推進センター「ぷらっと」で30名の参加者が講義を受けました。大阪ボランティア協会の太田昌司さんを講師にむかえ、「ボランティアってなあに」というテーマで講演いただきました。その後、ボランティア体験プログラムの説明、さらに車椅子、アイマスク、インスタントシニア(高齢者擬似)体験などを行いました。



ボランティア体験プログラム

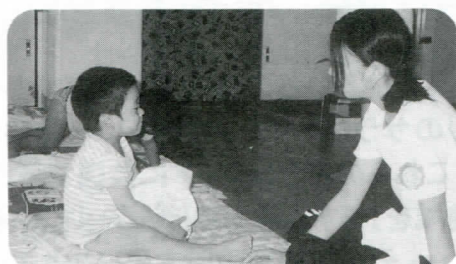
毎年7月～8月にかけて、大阪府ボランティア・市民活動センターと大阪府内の市町村社会福祉協議会との共催で実施しています。活動先は大阪府内の福祉施設やボランティアグループなど全406プログラム。豊中市内では49施設が参加され、約160名が活動されました。



「簡易通所授産所 たんぽぽ」

水江 衣里さん(学生)

どのような声掛けをするかなど悩んでしまって、本当にどう接すればよいかわからない状態でした。けれど、和紙を使って、うちわ作りをしているうちに、関わることの楽しさを感じることができました。



「豊中市立南丘保育所」 安部亜衣子さん(学生)

最初は本当に不安でしかたありませんでした。でも子どもたちもすぐになついてくれてうれしかったです。子どもが抱きついてきた時は少し暑かったりもしたけど、ぎゅーっと抱きしめてしまいました。

★結成10周年★ 市社協登録ボランティアグループ 「ステッキ」

6月19日の定例会に、「ステッキ」の名付け親の野一色様、元メンバーの数名と一緒に、ステッキ満10年をお茶とお菓子でお祝いました。

1992年(平成4年)6月に、高齢社会を迎え高齢者の介護をする家族の「杖＝ステッキ」になれたらとの思いを込めて、発足したグループです。

この10年の間、創立以来リーダーとしてのまとめ役である土屋さんから、登録をしたもののなかなか時間の都合がつかず、全く活動できなかった方まで含めメンバーの数は述べ77名になります。ご自身の健康や転居、家族の介護でやむなく退会されたり、大学を卒業とともにステッキを巣立っていった若者など、多くのメンバーが力を合わせてきました。翌平成5年には、当時府下でも珍しい個別支援を始め、27人のお世話をさせていただきました。長い方で6年間お世話させていただき、その間の色々な話に花が咲きました。

介護保険が始まった現在、活動の内容も少しずつ変化し、インスタントシニア(高齢者擬似)体験講座の回数も多くなってきています。

土屋リーダーを中心にこれからの10年をゆっくりでも確実な活動を続けていきたいと願っています。

(ステッキ K. S.)

○ 今後の予定

★ボランティアミニ講座

- ・11月20日 : 歌体操
- ・11月22日 :
車椅子・アイマスク体験
- ・11月28日 : 友愛電話訪問

★11月3日:ヒューマンカーニバル

平成15年

★1月:ボランティア新年の集い

★2月16日:

第10回ボランティアフェスティバル

★ バザーにご協力ください ★

ボランティア活動推進センター「ぷらっと」の運営資金づくりのためバザーを11月3日開催予定の「ヒューマンカーニバル」で行います。ご家庭でご不要の日用品や贈答品がありましたら、「ぷらっと」へご持参ください。(10月末まで受付)

★使用済みプリペイドカード集めてます！！

「もういらないから…」と捨ててしまおうと思っている使い終わったテレホンカードや交通機関のカードを、福祉のために役立ててみませんか。市社協では使用済みプリペイドカードを集めています。

このカードは換金して市社協の事業費として活用させていただきます。

対象となるのは

テレホンカード、ラガールカードなど

【お問合せ】

豊中市社会福祉協議会 Tel. 6841-9393

編集後記

ボランティアに参加している人は様々です。会社生活を終えたいろいろの経験者、家庭で多くの悩みを体験・解決してきた主婦、これからを期待される働き盛りのサラリーマン、今いろいろ勉強している学生などがいます。種々の条件の人が集まっていますが、これらのボランティアに共通する根本精神は「社会的な弱者をサポートし、皆が笑顔で生きていける地域を」です。最初にほんの少しの勇気と決断力さえあれば、このハードルなど簡単に越えられるのに…。そんな初期段階を思い出しています。

(アクセス M. Y.)

